



# コント



『しゃっくり  
が  
止まらない』

IKKAN

## 登場人物

---

### <登場人物>

IKKAN（しゃっくりが止まらない男）

金子茂樹（後輩）

(金子が座っているところに、IKがやってくる。)

IK「金子くんー。」

金子「あ、IKKANさん。」

IK「いやー、もう参っちゃったよー。エッチなマンガ。」

金子「あれ？どうしたんすか？」

IK「さっきから、しゃっくりが止まらなくて困ってんのよ、エッチなマンガ。」

金子「え？しゃっくり？」

IK「そうなんだよ、困ったもんだよ～、エッチなマンガ。」

金子「ん？え？どっちに困ってるんですか？エッチなマンガっすか？しゃっくりっすか？」

IK「いやだから、しゃっくりで困ってるんだよ。エッチなマンガ。」

金子「え？どっちです？え？」

IK「いやだからさあ、エッチなマンガ、しゃっくりがさあ、エッチなマンガ。止まらないのよ、エッチなマンガ。」

金子「すごいですね！そのしゃっくり！」

IK「あー、もう止まんないわ。エッチなマンガ。」

金子「いや、まずいですよ、そのしゃっくり。」

IK「え？そうかな？」

金子「電車とか乗ったら、めっちゃまずくないっすか、それ。」

IK「そんな事言ったってさあ、止まらないんだもん、エッチなマンガ。」

金子「ほら！それですよ！『エッチなマンガ』の中毒みたいに聞こえちゃいますもん、それ！」

IK「ええ？！どうすれば止まるかなあ、エッチなマンガ。」

金子「……好きなマンガはどんなマンガですか？」

IK「……エッチなマンガ。」

金子「これ、絶対まずいですよ！！」

IK「わあ、困るよこれ！誤解を受けるよ！こんな、エッチなマンガ。」

金子「IKKANさん、エッチなマンガ好きなんすか？」

IK「いやいや、別に好きじゃ無いよ！本当に好きなのは、エッチなマンガ。」

金子「何なんですか！エッチなマンガ好きなんじゃないですか！」

IK「いや、違う違う！これしゃっくりだから！」

金子「本当に好きなマンガは何なんすか？」

IK「俺はやっぱり、時代物とか好きだから、幕末物の、エッチなマンガ。」

金子「どういうことですか！」

IK「いや違っ！だからこれはしゃっくりなんだって！」

金子「(!)でも、これやっぱり、人ごみがまずいですよ。」

IK「人ごみじゃまずいかな？エッチなマンガ。I

金子「ほら！それぞれ！前後の文脈で、エッチなマンガが大好きな人に見えちゃいますって。」

IK「ええ～？じゃあ、どうすればいいのよ？この、エッチなマンガ。」

金子「ひたすら、喋らないでいたほうが、まだマシっすよ。」

IK「そう？」

金子「会話の隙間に入らないほうが絶対いいですって。」

IK「なるほどね……エッチなマンガ。……エッチなマンガ。……エッチなマンガ。……エッチなマンガ。……エッチなマンガ。これ逆にまずくない？！」

金子「絶対まずいです！」

IK「逆にまずいよ！」

金子「間違えました！これじゃあ、完全に危ない人でした！」

IK「どうすればいいの？これ！エッチなマンガ。」

金子「前後の文脈を工夫すればいいんですよ！それで危なくないような感じになりますって。」

IK「危なくないような？エッチなマンガ、そんな、エッチなマンガ。あるかなあ。」

金子「ありますって。僕が試しに言いますから。」

IK「あ、そう？頼むよ。」

金子「A！B！C！D！E！F！G！」

IK「エッチなマンガ。」

金子「ほら！どうすかコレ！」

IK「どうすかコレ！じゃねえよ！アルファベット言いながら、人混み歩くの絶対不自然じゃん！」

金子「いいから、ちょっとやってみてくださいよ！」

IK「A！B！エッチなマンガ、C！D！エッチなマンガ、E！F！エッチなマンガ、」

金子「ちょっと、ちょっと！変なところでエッチなマンガを入れなくてくださいよ。」

IK「いや、そんな事言ったって、そうタイミング良く、しゃっくりなんて出来ないよ、エッチなマンガ。」

金子「ちょっと、なんなんすか！全然役に立たねえな！このエッチなマンガ！」

IK「役に立つ立たないじゃないから、エッチなマンガ。」

金子「そもそも、そのエッチなマンガって、どんなエッチなマンガなんですか！」

IK「知らねえよ！」

金子「タイトルくらい思い出してくださいよ！」

IK「しゃっくりにタイトルないから。エッチなマンガ。」

金子「（風船を割る）」

IK「わあ！びっくりした！……何！何！何！」

金子「どうですか？ロマンチック。」

IK「いや、どうですかじゃないよ。なんでいきなり風船割るのよ。」

金子「びっくりしました？ロマンチック。」

IK「そりゃ、びっくりするよ。」

金子「止まってませんか？しゃっくり。ロマンチック。」

IK「え？……あ、出てない。しゃっくり止まったわ。わあ、助かったわ。ありがとう。」

金子「しゃっくりには、びっくりが一番いいんですよ。ロマンチック。」

IK「つか、そのロマンチックって何？」

金子「あ、これはロマンチック、僕のしゃっくりです。ロマンチック。」

IK「今度は、ロマンチックが止まらな〜い。」

コント『しゃっくりが止まらない』

<http://p.booklog.jp/book/130365>

著者：IKKAN

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/ikkanikkan/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/130365>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：デザインエッグ株式会社